福井市で社会貢献フォーラム

つながる・ひろがるボランティアと地域の絆

社会貢献フォーラム「つながる・ひろがるボランティアと地域の絆」（全日本社会貢献団体機構、福井新聞社、全国地方新聞社連合会主催）が11月20日、福井新聞社「風の森ホール」で開かれた。気象予報士の半井小絵さんを含む5人によるパネルディスカッションが行われ、事例を紹介しながら社会貢献活動の役割と可能性について討論した。災害時に限らず普段のボランティア活動が心の交流を生み、地域のコミュニティ力を高めることを再認識し、市民ら230名が熱心に聞き入った。

人と人との絆を感じて　半井さん

村松　社会貢献活動を通じて人々が出会い、つながり、絆を深めることが、地域に様々な変化を生み、いざというときに大きな力を発揮する。よりよい社会づくりのために、ボランティアや企業、団体による社会貢献活動が果たす役割を考えていきたい。

鳥越　私は、阪神淡路大震災の被災者だった。深刻な現場で、他県から駆けつけてくれた人たちが横に立ってくれたとき、本当にうれしかったし、心の支えになった。ボランティアの本質とは「そこにいてくれること」が一番だと思う。

東日本大震災以降、私たちは明治から続く「成長・開発」の時代から、「成熟化・定常化」の時代に入り始めた。今までは「成長・開発」が幸せだと感じる時代だったが、その中でコミュニティは崩壊し、家庭は大変難しい問題を抱えてしまった。東日本大震災はそうした社会のあり方を考える契機となり、新しい時代の到来の自覚を早めたと考えられる。「成熟化・定常化」の時代には、国家の役割よりコミュニティやNPOの役割が大きくなっていくだろう。

加藤　福井はナホトカ号重油流出事故や福井豪雨を経験しており、ボランティアへの意識は高いと思う。私たち福井県遊技業協同組合も、様々な活動を行っている。東日本大震災が起きたときは、福井県からの要請を受け、ボランティアの方々の運搬車輌としてワゴン車や軽トラ、木材を処理する器具等をお渡しした。また、ボランティア支援の一環としてキャンペーンを催し、東日本大震災の震災孤児の方に対する寄付を募った。これからも中長期にわたる活動をしていきたいと思っている。

昨年、福井でAPECを開催したときは、ホールの半径500m以内の清掃活動を毎日行った。他にも、ホールで缶の蓋のプルトップを集め車椅子を寄付したり、ホールでご寄付いただいた端玉景品のお菓子を幼稚園や保育園、社会福祉施設などに配ったりしている。

成熟化・定常化の時代へ　鳥越さん

奥田　福井新聞社では、「みらい、つなぐ、ふくいプロジェクト」を2009年にスタートさせた。様々な事業活動に取り組んでいるが、その中に絶滅したコウノトリを福井に呼び戻そうという活動があり、越前市の白山地区にコウノトリ支局を開設している。キャンペーンは3年目になり、行政の方や地元の住民の方のご協力とご努力の甲斐があって、先日、文化庁からコウノトリの移送・飼育の申請を許可されるなど成果も出てきている。

また、取材する中で環境に熱心な地元団体の方々に地域社会への貢献活動について聞く機会も多くあります。白山地区では「水辺と生き物を守る農家と市民の会」という団体が、珍しい生物であるアベサンショウウオが生息する環境を整えたりしている。他にも、九頭龍川では、県外の釣り人が「サクラマス・レストレーション」を発足させ、サクラマスが産卵できる環境を守る活動を続けている。住民たちも「永平寺川にサケ・サクラマスのそ上を実現する会」をつくり行政を動かすなど、ボランティアの輪が広がっている。

中長期にわたる活動を　加藤さん

半井　私も阪神淡路大震災のときに被災した。そのとき、いろんな人への感謝の気持ちや家族のありがたさを実感した。3月に東日本大震災があり、そのことを思い出し、どうしても被災地に行こうと思った。6月に岩手県へボランティアに行き、避難所にいる方々と一緒に「負けないゾウ」というタオルでできたゾウを作った。針を持って集中していると辛さを忘れるということで、ひとつできると笑顔になり、最後には声をあげて笑っていた。元気を取り戻していく姿を見て、人の底力と、人と人との絆を感じた。参加した方から「ありがとう」と言われ、強く生きている方々に逆に励まされた思いがした。

村松　先ほど鳥越先生がボランティアは「横に立つこと」と言っていたが、半井さんは現地で被災者の方の隣に心が寄り添ったのだと思う。

未来の社会と絆を結ぶ　奥田さん

鳥越　今、コミュニティが崩壊の危機にあるという意味でも、こうした社会貢献ボランティアは不可欠だし、今日示された内容はどれも魅力的であった。加藤さんの清掃活動は、一見地味なことだが、周りの人はちゃんと見ている。すごく意味があり、貴重な経験だと思う。本来ボランティアは目立たなくていいのだが、「見える」ことは非常に大切。福井新聞社の取り組みも、コウノトリというシンボルがあるのはとてもいいことだと思う。

加藤　清掃や端玉菓子の寄付などの地道な活動はこれからもやっていきたいし、どんどん広げていきたいと思う。

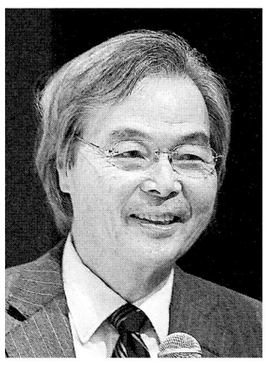
奥田　地域の皆さんは、目先ではなく、未来の社会との絆をもって行動している。それは地域だけでなく社会も同様であり、何かに関わったり、つながったりしていくことが大事なのだと思う。

老若男女参画社会へ　村松さん

村松　国や自治体が何かしてくれるのを待つ時代ではなく、自分たちで自分たちの住む故郷をより良くしていく時代に入ったということだろう。

これからは、老若男女参画社会になっていく。すべての世代が参加して、こういう社会にしたいと声を発し、つながりを持つことで、より良く住みやすい地域になるだろう。本日は、ありがとうございました。

パネリスト



鳥越　皓之氏
早稲田大学教授

加藤　英彦氏
福井県遊技業協同組合理事長

奥田　康一郎氏
福井新聞社編集局社会部記者

コーディネーター

村松　真貴子氏
アナウンサー・エッセイスト

講演　気象災害と防災への心がまえ

半井 小絵 氏
気象予報士・元NHKお天気キャスター

気象情報の中で防災に関わる者として、3月に発生した東日本大震災は"防災情報を伝える"ということを改めて考えさせられるものだった。私は気象予報士で地震は専門ではないが、防災に関わるということでは同じである。会員として所属する日本災害情報学会では、どのように情報を活用して住民の避難行動に結びつけるかを研究しているが、結論としては「いかに他人ごとではなく、自分のこととして考えられるか」が決め手となっている。

今年6月、岩手にボランティアに入ったとき、被害にあわれた地域で助かった方々が口を揃えて「まさかこんなことになるとは思わなかった」と言っていた。多くの方が、「自分は大丈夫」と思ってしまう。それは地震・津波だけでなく、気象災害についても同じ。これまでは大丈夫でも、自然が相手なので次はわからない。避難勧告が出て行動せずに被害にあうよりも、「今回は避難して空振りだったが、何もなくて良かった」という風に気持ちの切り替えをしていただきたい。

自分のこととして考える

福井県では、2004年7月に福井豪雨があった。その後も、集中豪雨は毎年のように発生し、今年は新潟・福島豪雨が起きてしまった。福井豪雨の時は、美山地方で平年7月の月間雨量236.7ミリを上回る総降水量285ミリという雨が一気に降った。福井市も記録的な大雨となったが、少し離れた小浜市の雨量はゼロであった。こういう傾向が最近の特長で、大雨が降るところと降らないところが極端になっている。この集中豪雨によって足羽川原の堤防が崩壊し、大きな浸水被害が発生した。

そうした自然災害から身を守るには、やはり早めの避難が重要である。そして、危険な場所には近づかないことが大切だ。増水した川や地盤のゆるんでいる地域には、絶対に近づかないこと。また、土砂災害は大雨後に発生することもあるので、雨が止んでもしばらく様子を見てから戻ってほしい。浸水の恐れがある低い土地の方も、すみやかに避難してほしい。ただし、道路が川のようになって膝下まで水がきている場合は、離れた避難所への移動はかえって危険になる。もし、家が2階建て以上で比較的頑丈であり、崖のそばでなければ、外に出るよりも2階、3階に上がるといいだろう。無理に避難所に行かないという判断も必要だ。

今日ひとつだけ頭の片隅に置いていただきたいのは、「自分だけは大丈夫と思わない」ということ。自然を相手にしているのだから、想定外のことが起こることもあると考えていただきたい。

私たちは、社会に役立ち必要とされる研究や事業、活動をサポート・応援しています。

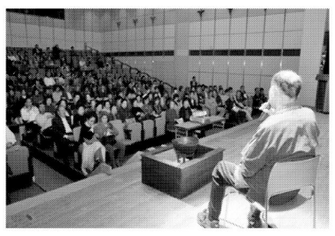
助成事業

今日の社会に最も必要とされる研究や事業に助成する活動は当機構の設立趣旨の根幹であり、中心事業です。**1. 学術・文化の振興、2. 命を大切にする研究・活動、3. 子どもの健全育成に関する事業**を中心とした３つの分野において最も社会が必要としている事業を選び助成を行っています。

◆平成22年度助成事業（実績の一例）

「信楽陶芸トリエンナーレ 2010『信楽まちなか芸術祭』」事業
－信楽陶芸トリエンナーレ実行委員会－

「ヒマラヤ山村民の命と暮らしをまもる植林」事業
－特定非営利活動法人 ヒマラヤ保全協会－



「国民読書年 ことば文化啓発キャンペーン」事業
－新潟・栃木ことば文化推進協議会－

顕彰事業

会員の社会貢献活動を顕彰し、今後一層の活動を期待して、年間で最も優れた社会貢献活動に「社会貢献大賞」を授与することとし、平成17年から実施しております。

第４回　社会貢献大賞
「福祉関係施設への備品等寄贈」事業
和歌山県遊技業協同組合

第５回　社会貢献大賞
「『夢まるふぁんど』を中心とした総合的社会貢献」事業
千葉県遊技業協同組合

第６回　社会貢献大賞
「ユニバーサル社会実現に向けた社会貢献」事業
兵庫県遊技業協同組合

全日本社会貢献団体機構　TEL.03-5227-1047 http://www.ajosc.org